

比較家族史学会 会報 比較家族史 52

事務局 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-7 弘文堂気付
郵便振替(会費) 00130-4-25222 (年報バックナンバー・その他) 00180-3-604964

比較家族史学会研究大会第五一回大会

日時 二〇〇九年六月二〇日(土) 二一日(日)
会場 大阪大学豊中キャンパス

大学教育実践センター大講義室(二階)
〒五六〇-〇〇四三 豊中市待兼山町一-一六

※阪急電車宝塚線 石橋駅下車東へ徒歩一五分

大阪モノレール 柴原駅下車徒歩一〇分

大阪国際(伊丹) 空港から大阪モノレールで柴原駅まで六分

(例:大阪空港駅九時三三分発、柴原駅九時二九分着)、タク

シー利用の場合は、空港から会場まで一〇分

<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/annai/index.html>(別掲地図参照)

問い合わせ先 大阪大学法学部 床谷研究室

〒五六〇-〇〇四三 豊中市待兼山町一-一六

電話 〇六一六八五〇-五六三九

FAX 〇六一六八五〇-五六三九

メールアドレス

参加費 一〇〇〇円(会員外の方も同)

弁当代 一食一〇〇〇円(同封の出欠葉書で予約して下さい)

※二日は、学内食堂は営業していません。

◆プログラム

六月二〇日(土)

○受付開始 午前九時三〇分より

○会長挨拶 戒能民江(お茶の水女子大学)

一〇時〇〇分〜一〇時一〇分

【シンポジウム】

「歴史の中の『少子化』」

司会 床谷文雄(大阪大学)、八木透(佛光大学)

(趣旨説明) 床谷文雄 一〇時一〇分〜一〇時二五分

(基調報告) 荻野美穂(同志社大学)

「どのようにして子どもは『つくる』ものになったのか」

一〇時二五分〜一一時一〇分

(報告一) 西野悠紀子(女性史総合研究会)

「古代中世における人口政策と子ども」

一一時一〇分〜一二時四五分

(コメント一) 沢山美果子(岡山大学客員研究員・非常勤講師)

「近世における産むこと、産まないことと子どもの『いのち』」

一二時四五分〜一三時〇〇分

○昼食休憩 一二時〇〇分〜一三時〇〇分

(報告二) ミケラ・ケリー(東京大学大学院)

「少子化問題の落とし穴―文化人類学・民俗学の視点から」

一三時〇〇分〜一三時三五分

(報告三) 加藤彰彦(明治大学)

「少子化・人口減少の歴史的意味」

一三時三五分〜一四時一〇分

(コメント二) 廣嶋清志(鳥根大学)

「現代人口政策の可能性」

一四時一〇分〜一四時二五分

○休憩 一四時二五分〜一四時三五分

(報告四) 梅澤彩(摂南大学)

「男女共同参画社会における家族形成と自己決定」

一四時三十分～一五時一〇分

〔報告五〕 小玉亮子 (お茶の水女子大学)

「近現代ドイツにおける少子化問題と家族」

一五時一〇分～一五時四十分

〔コメント三〕 青柳和身 (岐阜経済大学)

「資本主義的人口再生産様式の検討課題—経済学的ジェンダー(性差別)論争を手がかりにして—」

一五時四十分～一六時〇〇分

○休憩 一六時〇〇分～一六時一〇分

〔討論〕 一六時一〇分～一七時四〇分

〔総括〕 一七時四〇分～一七時五〇分

〔懇親会〕 一八時〇〇分～二〇時〇〇分(阪大生協)

六月二日(日)

○受付開始 午前九時〇〇分より

【自由報告】

〔自由報告一〕 工藤豪 (日本大学)

「現代家族における隠居慣行の持続と変容」

九時三〇分～一〇時一〇分

〔自由報告二〕 施利平 (明治大学)

「墓の継承意識からみる戦後の家族と先祖祭祀の持続と変化—全国調査データ(GJSS-2001)を用いた実証研究」

一〇時一〇分～一〇時五〇分

○休憩 一〇時五〇分～一一時〇〇分

〔自由報告三〕 松本誠一 (東洋大学)

「『修正核家族 modified nuclear family』考」

一一時〇〇分～一一時四〇分

〔総会〕 一二時四〇分～一二時二〇分

○昼食休憩 一二時二〇分～一三時〇〇分

【ミニ・シンポジウム】

「越境家族と国籍」

司会 松本克美 (立命館大学)

〔趣旨説明〕 嘉本伊都子 (京都女子大学)

一三時〇〇分～一三時一〇分

〔報告一〕 嘉本伊都子 (京都女子大学)

「クロス・カルチュラル・キッズと国籍」

一三時一〇分～一三時四〇分

〔報告二〕 山本かほり (愛知県立大学)

「越境家族の子どもたち—〈在日〉と〈日系〉」

一三時四〇分～一四時一〇分

○休憩 一四時一〇分～一四時二〇分

〔報告三〕 吉田容子 (弁護士・人身売買禁止ネットワーク)

「人身売買と国籍」

一四時二〇分～一四時五〇分

〔報告四〕 藤本伸樹 (アジア・太平洋人権情報センター)

「子の奪取の民事面に関するハーグ条約をめぐる考察」

一四時五〇分～一五時三〇分

○休憩 一五時三〇分～一五時四十分

〔討論〕 一五時三〇分～一六時四十分

〔総括〕 一六時四十分～一六時五十分

閉会の辞 運営委員長 床谷文雄

運営委員 床谷文雄 (運営委員長・大阪大学)

中尾敏充 (大阪大学)・牟田和恵 (大阪大学)

白石玲子 (神戸市看護大学)・梅澤彩 (摂南大学)

◆研究大会シンポジウム概要

(1) シンポジウム

「歴史の中の『少子化』」

本年度のシンポジウムでは「歴史の中の『少子化』」をテーマとしている。第二次世界大戦後のベビーブーム世代が成長するとともに、日本は高度経済成長を遂げてきたが、一九七〇年代の半ばから様々な社会的問題が噴出し、人々の生活形態、意識も変化してきた。医学の進歩等もあり、平均寿命が伸び高齢化率が高まるとともに、出生率の低下が顕著となり、急速に少子(高齢)社会化が進んだ。一〇年前、厚生省は「少子社会を考える—子どもを産み育てることに「夢」を持てる社会を」と題する平成一〇年版厚生白書を取りまとめた。そこでは、人口減少社会の到来と少子化へ

の対応が論じられ、「自立した個人の生き方を尊重し、お互いを支え合える家族、自立した個人が連帯し支え合える地域、多様な生き方と調和する職場や学校の姿」が展望されている。

こうした政府による一定の政策遂行のためにする現代の「少子化」の要因・対策論ではなく、比較家族史学会らしく、歴史の中に常にあつたであろう「少子化」(人口減少期)を様々な角度から分析したいと考えた。人口の変動と社会経済構造・家族の在り方は互いにその因となり果となつて深く絡み合っているであろうことは容易に想像がつく。しかし、その実態についての正確な学問的分析は、十分に行われているとはいえないであろう。このシンポジウムでは、「産まない」「産めない」「育たない」「育てない」をキーワードとして、「少子化」の歴史的意味を古代から現代まで、また外国との比較の視点も交えて、各専門分野の視角から行われる分析を踏まえて多角的に考えてみたい。

(2) ミニ・シンポジウム

「越境家族と国籍」

「性の搾取」を伴う「移民の女性化」は、合法であるか否かを問わず、多様な国籍の組合せの男女関係と、その関係性から再生産される子どもたちをも生み出している。また、「連れ子」ともなう国際結婚による再婚も増加している。

二〇〇八年六月の最高裁判決において、両親の結婚を国籍取得の要件とした国籍法の規定は「法の下の平等」を定めた憲法に違反するとの判断を示した。その後の国籍法改正(二〇〇九年一月一日施行)については、「偽装日本人」を生み出すとして反論もある。「国際的な子の奪取の民事面に関するハーグ条約」への日本政府の締結は、国際結婚が破綻した親子にどのような影響を与えるのだろうか。「越境家族と国籍」という視点から問題提起を試み、過去、現在、そして未来をフロアでご参加いただける方々とともに考えてみたい。

◆事務局からの連絡

一 会費納入のお願いと連絡

年会費は、個人会員は三〇〇〇円です。今回は会費未納分のある方に振込用紙を同封しております。住所ラベルの右下の既納年度(二〇〇九年四月二〇日現在)が更新してありますが、同日以降の振込み、および行き違いの節はご宥怒ください。また、学校法人名で振り込まれるときは、必ず通信欄に会員氏名をお書きください。

二 「比較家族史研究」バックナンバーについて

「比較家族史研究」の既刊分の総目次はHPに掲載予定ですが、既刊分一三号までは一冊五〇〇円に値下げして販売しております。在庫の減少にご協力ください。なお、創刊号から四

号までは在庫がありません。購入希望の方は、学会事務局へご連絡ください。

三 二〇〇九年度秋季研究大会について

二〇〇九年度の秋季研究大会の発表募集等は、あたらためて行いますので、しばらくお待ちください。

四 事務局連絡先

〒一一二一八六・〇東京都文京区大塚
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科
小玉亮子研究室気付
電話&FAX: 〇三三五九七八一五三四
E-mail
(事務局専用アドレス)

◆理事会・総会報告

(理事会議事録)

日時 二〇〇八年一月九日(日)

時間 一〇時〇〇分～一三時三〇分

場所 椋山女学園大学文化情報学部棟

二〇七号室

出席者 二九名(委任状を含む)

議題

一 新入・退会会員の承認

今回は森紀子、高田京比子の二名の人会が、陣風、星野澄子、小馬徹、脇田晴子の四名の退会が承認された(敬称略)。

二 比較家族史研究について

『比較家族史研究』二三号の編集方針および進捗状況について報告された。

三 シリーズ比較家族について

早稲田大学出版会との交渉の経緯が報告され、今後の方針について審議された。

四 HPの充実について

HPの充実について承認された。

五 会費値上げについて

近年の一般会計の逼迫状況について説明があり、会費の値上げについて、引き続き審議することが承認された。

六 次回以降の研究大会および秋季研究大会について

第五一回研究大会は六月二〇日二二日に大阪大学で行われることが確認された。

七 推薦理事の補充について

欠員があつた事務局担当理事として、加藤彰彦会員が推薦され、承認された。

八 その他

(臨時理事会事録)

日時 二〇〇九年一月二五日(日)

一三時〇〇分〜一五時三〇分

場所 京都女子大学S校舎二二二号室

出席者 二八名(委任状を含む)

議題

一 新入・退会会員の承認

今回は梅澤彩、竹山貴子、石川照子、田中(栗山)圭子の四名の入会ならびに、大城道子、首藤美香子、緒方和子、清水昭俊の四名の退会が承認された(敬称略)。

二 比較家族史研究について

『比較家族史研究』二三号の編集の進捗状況について報告された。投稿規程、投稿原稿執筆要項が作成中であること、査読体制および編集体制についてさらに検討作業を進めることが了承された。

三 シリーズ比較家族について

第五巻、第六巻についての進捗状況、第七巻以降の刊行について報告がなされた。

四 会誌の電子化について

会誌の電子化について、ワーキンググループを設置することが承認された。

五 会費値上げについて

会費滞納者に対する対応および、会費の値上げについて次期総会において提案審議することが承認された。

六 次回の研究大会について

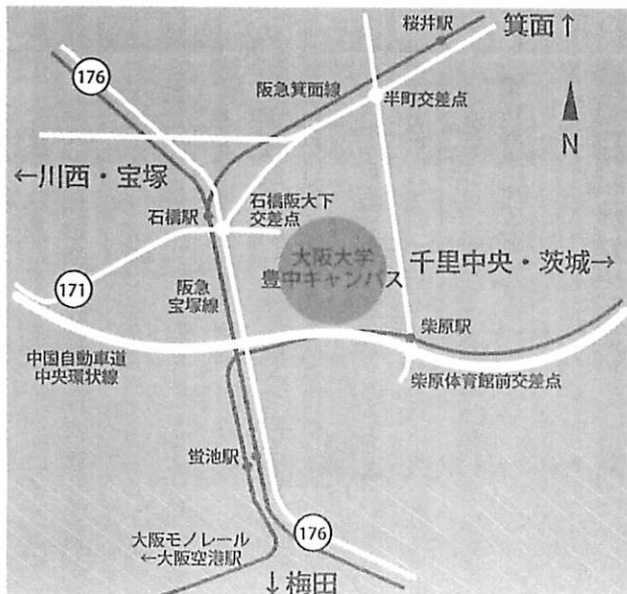
第五一回研究大会について、企画委員会より、シンポジウム「歴史の中の『少子化』」、ミニ・シンポジウム「越境家族と国籍」について説明

がなされた。

七 その他

◆新入会員

森紀子(神戸大学)、高田京比子(神戸大学)、梅澤彩(椋山女学園大学)、竹山貴子(お茶の水女子大学大学院博士課程)、石川照子(大妻女子大学)、田中(栗山)圭子(埼玉学園大学非常勤講師)
(以上、敬称略)



第51回大会会場案内図